

News Release



2009年2月26日に本社ドイツ(ルートヴィッヒスハーフェン)で開催された決算説明会の報道資料の翻訳版です。

BASF、2008年(1~12月)業績を発表： 厳しいビジネス環境下、堅調な業績

- 2008年通年：売上高は8%増、特別項目控除前EBITは10%減
- 世界経済の大幅な衰退により、第4四半期の業績は低調
- 事業再構築および、効率化プログラムの実行を加速
- 2009年の見通し：売上高は2008年比で減少、EBITはさらに落ち込む見込み
- 資本コストに匹敵する利益と安定した配当の維持という野心的な目標を設定

「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる BASF(本社：ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は、世界的な経済危機の影響に立ち向かうため、以下の通り、迅速かつ断固とした対応策を取っています。

- 大幅な需要減に合わせ、世界全体で生産量と投資額を調整
- 事業再構築プログラムと効率化プログラムの実施を加速

BASF 取締役会会長のユルゲン・ハンブレヒトは、本社のルートヴィッヒスハーフェンで開催された年次記者会見で、次のように述べています。

「製品ポートフォリオの多様化により、この不況下においても、BASFは化学業界の他企業と比べ、はるかに優位な地位にあります。農薬、栄養、化粧品、衛生、石油・ガスなどの好調な事業が安定化の要素として機能しています。当社の財務体質が非常に強固であり、化学業界でも屈指の格付けを得ていることは、現時点では極めて重要です。高いフリー・キャッシュフローは、近年の BASF の強みであり、2008年には20億ユーロを大幅に上回りました。」

BASF グループの財務体質は、依然として強固です。2008年末の自己資本比率は約37%でした。BASF グループの金融負債額は145億ユーロ、流動資金は28億ユーロでした。金融負債額の約57%は、満期1年以上の長期負債でした。BASFの中長期資金の借入は、社債によって行われており、バランスの取れた返済計画となっています。金融市場の緊迫した情勢にも関わらず、BASFは、コマーシャルペーパーによって支障なく資金調達に成功しました。

長期的な競争力の維持に向け、BASFは、現在進行中の効率化プログラムと事業再構築プログラムを加速させており、BASF グループ全体を通じて、収益性の低いプラントやサイトを閉鎖します。対象となるのは、例えば米国、アジア、欧州の塗料向けサイトや、アジアのプラスチック前駆体のプラントなどです。一般的には、このようなプラントは、新たな設備投資によって置き換えられるものです。BASFは目下、当初の計画を前倒しする形で施設の閉鎖を進めており、その結果、残念なことに2009年には、世界全体で合計1,500人以上の雇用が失われることになります。

2009年3月3日

お問い合わせ：
BASF ジャパン株式会社
大倉 真紀
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
maki.okura@basf.com

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒102-8570
東京都千代田区紀尾井町3-3
TEL: 03-3238-2341
FAX: 03-3238-2514
<http://www.japan.bASF.com>

2008 年は堅実な業績

2008 年通年では、世界の深刻な経済危機にも関わらず、堅実な業績となりました。2008 年の売上高は、前年比 8% 増の 623 億ユーロでした。これは主にすべての事業部門での価格高騰によるものです。しかし、2007 年と比較して平均的に高騰した不安定な原材料価格については、完全に転嫁することはできませんでした。特別項目控除前 EBIT については、第 4 四半期までは、過去最高記録の更新に向けて順調に推移していました。通年の最終的な特別項目控除前 EBIT は 69 億ユーロをわずかに下回り、過去最高を記録した 2007 年からは 10% 減となりました。BASF は 2008 年、資本コストを 16 億ユーロ上回る利益を得ました(2007 年は 29 億ユーロ)。

2009 年の見通し

ハンブレヒトは次のように述べています。

「2009 年は、これまでにない困難な 1 年となるでしょう。2008 年第 4 四半期に BASF の世界事業は大幅に落ち込み、2009 年に入っても、化学製品の需要は持ち直しておりません。トレンドの反転はまだ見えません。それどころか、BASF の販売市場の状況は悪化しており、バリューチェーンの在庫レベルは依然高すぎる状態です。その結果、化学業界は縮小し続けています」。

ハンブレヒトは、現在のすべての予測は、極めて不確実な要素に基づいていると述べました。マクロ経済的条件を前提とした、2009 年の大まかな見通しは以下の通りです。

- 先進国の成長率の減少(マイナス 1.6%)や世界の化学品生産の減少(製薬を除き、マイナス 2.0%)による世界経済の成長率の著しい落ち込み(マイナス 0.3%)
- ユーロ／ドルの平均為替レートは、1 ユーロ = 1.30 米ドル
- ブレント原油の平均価格は、1 バレル = 50 米ドル

チバ(スイス)とリーバスエナジー(ノルウェー)の買収に関わらず、BASF の 2009 年の売上高は 2008 年から減少し、EBIT はさらに減少すると予想しています。EBIT は、統合コストによってマイナスの影響を受けるでしょう。それでもなお、BASF は資本コストに匹敵する利益と安定した配当の維持を目指しています。ハンブレヒトは、次のように述べています。

「現在の経済状況下でこうした目標を設定することは、極めて野心的です。BASF は、長期的な成功を確かなものとするため、研究開発費についても、過去数年間と同水準を維持します」。

事業別セグメント情報：石油・ガス部門では大幅な増収を達成

2008 年の化学品部門の売上高は、前年比 10% 増でした。これは特に、原材料価格の大幅な高騰を転嫁したことによるものです。EBIT は減少しました。これは主に、クラッカー製品の利益率の低下と、米国のハリケーンに伴うプラントの一時停止、年末の大幅な需要減退によるものです。

プラスチック部門の売上高は、為替のマイナスの影響などを理由に 3% 減少しました。パフォーマンスポリマー事業本部の販売量と利益率が低下したことと、第 4 四半期の生産稼働率の低下と在庫評価損などを理由に、利益は減少しました。

高機能製品部門の売上高は、前年比で微増(プラス 1%)となりました。增收には、アクリル&ディスパーション事業本部が大きく貢献しました。ケア・ケミカルズ事業本部のさらなる増益により、利益は増加しました。

機能性化学品部門の売上高は、触媒事業本部と塗料事業本部の減収に伴い、微減(マイナス 1%)となりました。自動車業界と建設業界の需要減退と、利益率にマイナスの影響を及ぼした原材料価格の高騰により、この部門ではすべての事業本部で減益となりました。

農業関連製品部門では、農産物価格の高騰による農薬への旺盛な需要を背景に、売上高が 9%増加しました。販売量と利益率の上昇により、利益は大幅に増加しました。

石油・ガス部門の売上高は、2008 年の平均石油価格の高騰と天然ガス取引事業の販売量の増加を理由に、大幅増(プラス 37%)となりました。また、石油価格の高騰に伴う探索・生産事業部の増益により、同部門は前年対比で増益を達成しました。

地域別セグメント情報：欧州地域と南米地域で增收を達成

欧州地域の 2008 年の売上高は、13%増の 387 億ユーロとなりました。2008 年下半期以降、経済環境は悪化していますが、特に石油・ガス部門の貢献により、EBIT は 2007 年比で大幅増となり、58 億ユーロでした。

北米地域の売上高は、現地通貨ベースでは 8%増加しましたが、ユーロ建てでは約 1%減少しました。北米地域の経済環境と内需は、2008 年下半期に大幅な弱含みとなりました。EBIT は 90%減の 7,300 万ユーロとなりました。これは主に、プラントの一時停止、利益率の低下、第 4 四半期の事業全体の後退によるものです。長期資産の評価損も、利益にマイナスの影響を及ぼしました。

アジア太平洋地域の売上高は、現地通貨ベースで 4%増加しました。ユーロ建ての売上高は、前年比で微減の 87 億ユーロでした。化学品部門、プラスチック部門、機能性化学品部門の利益の減少などを理由に、利益は 5 億 7,400 万ユーロ減の 2 億 5,400 万ユーロとなり、大幅な減益となりました。高機能製品部門と農業関連製品部門は、プラスの貢献を果たしました。

南米、アフリカ、中東地域の売上高は、現地通貨ベースで 12%、ユーロ建てで 7%増加しました。利益は 1%増の 3 億 1,400 万ユーロでした。これは主に、南米の農業製品部門の好調な業績とケア・ケミカルズ事業本部の著しい成長によるものです。

■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ポートフォリオは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスから構成されています。信頼に応えるパートナー企業として、あらゆる業界のお客様のさらなる成功をサポートしています。BASFは、高付加価値製品と高度なソリューションの提供を通じ、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、モビリティの改善などの世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。従業員数は約9万7000人、2008年には620億ユーロ以上の売上高を計上いたしました。BASF のホームページアドレスは、www.bASF.com、BASF ジャパンのホームページアドレスは、www.japan.bASF.comです。